

宇都宮市～日光市(旧今市市)の現場視察

(日本免震構造協会委員会の活動として2007年11月に実施)

1. 大谷石の採石場

- ・大谷石資料館
- ・大谷寺
- ・大谷町坂本の大陥没(1989)現場

2. 今市地震(1949, M6.4)

- ・日光杉並木に残された地滑り跡(地震坂)
- ・その他の痕跡

3. 関谷活断層

- ・日光の地震(1683, M7.0)を起こした断層
- ・地震による集落と街道の移転
- ・断層崖とトレンチ調査

1989.3.6(日)

不気味な大穴、集落を「井戸」に

朝日新聞

1989.3.6夕刊



東西六十メートル、南北七十メートルの穴が、一瞬に北側と東側にさらに約六十メートル広がった。

宇都宮市大谷町の大谷石の採石場廃坑跡。五日夕再陥没したすりばち状の穴は、二月十日の最初の崩落でがけっぶちに立っていた民家三棟と石蔵三棟をのみ込み、さらに民家や倉庫のある集落に近づいている。

空から見ると、まるで地球の「大口」だ。陥没した穴の断面には、空洞が数カ所見える。林を一旦越えた所には、採石した跡が白くむき出しになっていて、崩落がどこまで広がるかわからない不気味さをうかがわせる。

再崩落した大谷石採石場の廃坑跡(上)。先月十日の崩落(下)に比べてさらに、画面の手前から左上方にかけて陥没した。先月の崩落で生じた穴の左側にすでにヒビ割れがあるのがわかる

宇都宮市大谷町坂本で、朝日新聞社へリコプターから

写
'89

最初の崩落以来、大谷石材協同組合など関係五団体で組織する大谷地区災害対策関係機関等連絡会議を中心に進められている調査でも、その範囲は「はっきりしない」。

大谷石採掘現場の陥没崩壊(1989. 3)





大谷石資料館所蔵の資料より

